

笠木峠

急勾配の斜面、森林、高地の寒冷な気候は、食物の栽培に適していなかったため、この峠は高野山の存続に重要な役割を果たしました。高野山に続く道路が舗装されるまでの長年の間、参詣者（と荷物を運ぶ人）は町石道のような狭い道を通して山に登るしかありませんでした。

笠置峠は道中の重要な中継地であり、近くの笠木村の住民は、人夫や案内人として生活必需品や奉納する品を運び、労働力を提供しました。道は荷物を運ぶ動物には狭すぎたため、人が全ての物を運んで山に登らなくてはなりませんでした。運ばれたものの中には、墓や柱、石造建築に使われる巨大な石の塊もありました。このような石は数トンの重さがあったものの、道標の石柱である町石は、参詣者や人夫によって大切に現在の場所に運ばれました。

過酷な仕事だったに違いありませんが、物品、奉納品、さらには石さえを高野山まで運ぶという苦労は、信奉者にとって高野山の開祖である空海という僧（諡号 弘法大師、774-835）への献身を表明するために非常に重要でした。